

2017 日本学生スプリントトライアスロン選手権 兼

トライアスロン・チームタイムトライアル選手権大会

競技規則(ローカルルール)・主要注意

●はじめに

本大会は、日本トライアスロン連合(JTU)競技規則に加え、「日本学生トライアスロン選手権ローカルルール」(本紙)を設定して競技を行う。尚、特別に設定された項目以外は全て共通とする。

●大会運営について

円滑な学生大会の運営を行うため、選手は必ず時間を守らなければならない。時間等の変更は大会本部前に提示する。選手は各人の責任で変更事項について注意を払うこと。設定された時間に遅れる行為は厳重なペナルティーを科す他、場合によっては失格の対象とする。

●競技規則・備品について

- (1). 競技コースにおける周回数のカウントは選手の自己責任とする。周回の計測はアンクルバンドによって管理し、その周回数をオフィシャルとする。
- (2). エアロボトルは、全体の形状が水分を含むのに自然な形状をしている物のみ認める。
- (3). ナンバーカードはナンバー及び協賛企業名が見えるように、必ず身体の前後に装着すること。ナンバーカードが破けたり、外れたりすることがあるため、ナンバーベルトの使用を推奨する。ユニフォームに付けたナンバーカードが破ける、又は外れた場合、審判員・係員が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技を続けてよい。
- (4). ナンバーカードを意図的に折り曲げる等してナンバーが確認できない状態をつくる行為はペナルティーの対象とする。又、ウェットスーツの下にナンバーカードを装着したままスイム競技をすることを禁止する。
- (5). バイクシールはバイクの右側に取り付けること。
- (6). フロントファスナーの付いているレースウェアは使用禁止とする。
- (7). ハンドルバーのエンドキャップが外れている場合、原則としてレースへの参加を認めない。大会会場で当日紛失する等して用意ができない場合はテープ等でしっかりと穴を塞ぐこと。
- (8). ナンバリング以外のペインティング・タトゥーシールは禁止する。

●応援について

- (1). 本大会は競技者以外の者が競技者に対し、順位や前の選手との時間差等の情報を与えることを認める。但し拡声器を用いてはならない。
- (2). 応援者又はコーチが特定の競技者に伴走又は追走することは個人的援助とみなし、禁止する。
- (3). 競技中に競技者以外の者が競技者に対し、補給物資や装備の受け渡しをした場合、個人的援助とみなし、受け取った選手は直ちに失格とする。
- (4). コース上に出での応援は厳禁とする。

●ペナルティーについて

- (1). JTU 競技規則及びローカルルールに違反する行為に対してはペナルティーを与える。又、競技中に適用を受けなかった場合でも違反行為が認められた場合はレース後にペナルティーを与えることがある。
- (2). ペナルティーは「ストップアンドゴー(SG)ルール」又は「タイムペナルティー(TP)ルール」がその時の状況により、審判員の裁量で適用される。TP ルールについては1回の違反につき15秒のペナルティーを基本とするが、目に余るドラフティング、エントリーや受付等に遅れる行為に対してはこの限りでない。

●メディア規制について

- (1). 大会当日に大会に関する如何なる写真・ビデオ等の取材・撮影においても、必ず大会本部の許可を必要とする。
- (2). 許可には身分証明と連絡先の提示を必要とする。これを提示しない者には、大会に関する一切の取材・撮影活動を認めない。
- (3). 大会側から取材・撮影に関するデータの閲覧を要求し、大会側がこれを不適切であると判断した場合、データの削除を要求することがあるが、撮影者はこれに応じなければならない。
- (4). 本大会は競技中のトランジションエリア内の撮影は一切認めない。

●主要注意

- (1). バイクコースの試走は大会前日までとし、その際はヘルメットの着用を義務付ける。応援の者であっても、大会会場周辺ではバイク乗車中ヘルメットを着用すること。試走の際、一時停止ラインでは係員の指示に従い、停止すること。これらに従わない場合、厳重注意を与え、それが複数回に及ぶ場合は失格・出場取消とする。
- (2). ヘルメット着用の如何を問わず、多くの車両が出入りする駐車場ではバイクの乗車を禁止する。駐車場でのバイク乗車についても厳重注意を与えることとし、それが複数回に及ぶ場合は失格・出場取消とする。

- (3). 受付の際には本人確認のため JTU カードの提示を義務付ける。尚、電子媒体による提示は認めない。提示がない場合、大会への参加は認めない。
- (4). ボディーナンバリングは両腕・両足に行う。ナンバリングの場所にワセリン、ホットバーム、日焼け止め等を塗らないこと。
- (5). 前日のバイクチェックは行わないため、各自で責任を持ってバイクの整備を行うこと。又、ヘルメットチェックも各自行うこと。ヘルメットストラップは顎にしっかりフィットしていることを前提とし、不適切と判断された場合は競技中であっても、これを直させるために、選手の動きを止める場合がある。
- (6). 一般客、ボランティアスタッフ、大会役員、審判員等への不適切な言動はペナルティの対象とする。
- (7). 目に余る危険行為、替え玉出場、ドーピング等の不正行為を行った場合は失格とする。
- (8). コースのショートカット、周回不足等で規定の競技距離をカバーしていない場合は失格とする。
- (9). 観客、主催関係者、そして地域住民に注目されていることを十分に認識し、良識ある行動を心がけ、挨拶、時間厳守、ゴミの処理、式中の私語は慎む等、学生としての自覚を持って行動すること。
- (10). コースを離脱した場合においても、元の地点に戻れば競技を再開することができる。但し、原則としてコースの逆走及び停滞はしてはならない。
- (11). リタイアする場合は、必ず選手本人又は代理人が大会本部又は審判員にアンクルバンドを提出すること。
- (12). エイドステーションから提供されるコップ等は指定された場所に捨てること。
- (13). 補給食等のゴミを競技コース上に捨てることは禁止する。
- (14). 校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。但し、フィニッシュ時のフラッグの受け取りは許可する。
- (15). 脱水症状にならないよう水分補給を心がけること。
- (16). ヘッドホン類、ガラス容器の使用、通信機器(携帯電話等)の使用は禁止する。
- (17). フィニッシュ後はレースナンバーを速やかに外すこと。

●スイム競技

- (1). 本大会においては水温の高低にかかわらず、ウェットスーツの着用を義務付ける。
- (2). 入水チェックは指定された時間内でのみ行うことができる。各選手には入水チェックを行うことを推奨する。
- (3). 各選手は入水チェック終了の時間までに競技エリアに入らなければならない。入水チェックを済ませた選手は競技エリアから出ることができない。
- (4). 危険回避、体調保全のため競技を停止し、コースブイ、ロープ等につかまって小休止をとることは認める。但し、これらを利用し、移動することは認めない。

- (5). 競技中に救助を必要とする場合は片手を頭の上で振り、声を出して救助を求めること。
- (6). フォールスタート(フライング)が認められる場合にもスタートをやり直すことは原則としてしないが、当該選手にはペナルティーを与える。

●トランジッション

- (1). 競技備品はトランジッションエリア開放の時間帯のみ、これを移すことができる。
- (2). 競技備品は通路や他の選手の妨げにならないように設置しなければならない。審判員は選手の公正な競技を確保する目的で、これを移動させる場合があり、又選手に対してペナルティーを与える場合がある。
- (3). バイクをラックに掛ける時は、ラックナンバーが手前に見える向きのサドル掛けとする。向きを逆にした場合、他の選手に対する妨害行為とみなし、ペナルティーの対象とする。
- (4). ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかりと締めること。バイクフィニッシュ後は、バイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
- (5). ナンバーカードについてもバイクを取り出す前に装着すること。
- (6). レースウェア、ナンバーカードを整えてから、バイク、ラン競技に移ること。
- (7). 乗降者ラインについては、タイヤではなく選手の足を基準とする。乗車時はラインを足が1歩超えてから乗車し、降車時はラインの手前で足を1歩ついてから降車すること。
- (8). 競技中を除いて、審判員の許可がない限り、トランジッションエリア内に入出入りすることはできない。
- (9). トランジッションエリア開放後、競技備品の回収には選手本人があたり、出口ではナンバーカードを係員に提示すること。救護にかかっている等、やむを得ない理由で競技備品の回収ができない選手については、当該選手と同じ大学・チームの者に回収の代理を認める。その際、代理人は当該選手のナンバーカードを持参すること。

●バイク競技

- (1). バイクはロードレーサーでのみ出場を認める。ロードレーサーの定義に関してはJTU競技規則を参照。
- (2). 周回チェックのためサイクルメーターの装着を推奨する。
- (3). バイク競技中は硬質のヘルメットの着用を義務づける。表面及び内部に割れがあるヘルメットでの出場は認めない。
- (4). 全ての部門において後部の尖ったタイムトライアル(以下 TT)用ヘルメットの着用は禁止する。
- (5). 個人選手権の部・チーム TT の部では、通常のドロップバーハンドルのみ使用可能とし、ダイレクトハンドル(以下 DH)バーの装着及び使用は禁止する。
- (6). 個人オープンの部においてはDHバーの装着を認める。

- (7). 全ての部門において、前輪・後輪共に 12 本以上のスポーク構造をしているホイールのみ使用を認め、バトンホイール及びディスクホイールの使用は禁止する。
- (8). 個人選手権の部では、ドラフティング走行を許可する。又、最後尾の競技者は先頭と基準距離以下に接近した場合、その時点で失格となり、審判員の指示に従いコースアウトすること。
- (9). 個人オープンの部では、ドラフティング走行を禁止する。
- (10). チーム TT の部では、チーム内でのドラフティング走行は許可するが、他チームとのドラフティング走行は禁止する。
- (11). 個人・チームタイムトライアルの選手権の部においてのみ、スペアホイールの使用を認める。スペアホイールは大学内でのみ共有を認める。1 大学につき前後 1 セットのみを基本とするが、各大学の選手権の部への出場者が 20 名を超える大学は 2 セットの使用を認める。スペアホイールを新しいものに交換する際は大会本部若しくは審判員に申し出ること。
- (12). キープレフトを遵守し、追い越す場合には後方を確認し、右側から追い越すこと。二重、三重の追い越しは禁止する。追い越す際は前走者に声掛けをする等して注意を促すこと。
- (13). コース状況によって審判員が発する減速等の注意に従って競技をすること。
- (14). バイクを離れて走行することを禁止する。
- (15). バイク競技中、バイクの故障が発生し、且つこれを修理することによって競技の続行を希望する場合、審判員の指示に従って独力で処置することを認める。

●ラン競技

- (1). キープレフトを遵守すること。
- (2). 応援関係者及び他の選手の、競技者への伴走は認めない。
- (3). 個人選手権・個人オープンの部では意図的な同着は認めない。
- (4). フィニッシュ時はサングラスを外し、観客にアピールすることを推奨する。
- (5). 一度フィニッシュした選手が再度コース内に入ることはできない。

●その他

- (1). 選手は競技中であっても、審判長の裁量に基づき、競技を中止しなければならない場合があり、その指示には従うこと。
- (2). 雨天決行であるが、荒天で選手の安全確保が困難と判断される場合には、コース・競技の変更又は中止されることがある。
- (3). 変更となった事項については随時大会本部前の公式掲示板に掲げる。
- (4). その他細則は JTU 競技規則に基づく。

日本学生トライアスロン連合審判委員会
jutu08_info@yahoo.co.jp